

鬢雜載

〔新增〕京羽二重大全三職名かつら所井かもし

〔四條河原町角〕津國屋七兵衛 祇園町 染川
なほて三條下町

〔國花萬葉記一上山城〕金銀木竹土石

髪もじ 鬢師の外に、古へより烏丸邊に賣來れり、男女のそへ作り髪なり、

〔古事談二臣節〕惟成爲秀才、雜色之時、花道遙ニ一條一種物シケリ、惟成ニハ飯ヲ充タリ、而長櫃ニ飯

二外居、雞子一折櫃、擣鹽一盃納之テ、仕丁ニ令擔テ取出之、人々感聲喧々、其夜與妻臥テ手枕入テ

探ニ、下髪皆切之、此時驚問處、其時太政大臣ト申人、御炊ニ交易而、其長櫃仕丁シテ令擔出云々、件

妻敢無歎愁之氣、常咲云々、

〔世說新語六賢媛〕陶公少有大志、家酷貧、與母湛氏同居、同郡范達素知名、舉孝廉詳未、投侃宿、于時冰

雪積日、侃室如懸磬、而達馬僕甚多、侃母湛氏語侃曰、汝但出外留客、吾自爲計、湛頭髮委地、下爲二

髮一作鬢、賣得數斛米、斫諸屋柱、悉割半爲薪、剉諸薦以爲馬草、日夕遂設精食、從者皆無所乏、○中達略

及洛、遂稱之於羊皞、顧榮諸人、大獲美譽、

〔枕草子七〕むとくなる物
かみみじかき人の、かづらとりおろして髪けづる程、

〔枕草子十二〕見ぐるしきもの

色くろふやせにくげなる女のかづらしたる、

〔伊勢集上〕物へ行人にかづらをやるとて

けづりこし心もまると玉かづらたむけの神になるぞうれしき

〔雅亮裝束抄一〕五せち所のこと

わらはまもづかひのさいし、ひめ君のかづら、かむざし、さしぐしとりぐして、うちみだりのはこ